

# 長野県の産業天気図

## 一 産業別四半期見通し調査結果（2012年10-12月期見通し） 一

県内主要15業種の現況（2012年7-9月期）と見通し（2012年10-12月期）調査を実施した。

- ◇ **2012年7-9月期の現況**は、全15業種中、『晴れ（好調）』が該当業種なし、『薄日（順調）』が2業種、『曇り（普通）』が5業種、『小雨（低調）』が5業種、『雨（不調）』が3業種となった。前回に比べ『薄日（順調）』と『雨（不調）』が増加し、『晴れ（好調）』と『小雨（低調）』が減少した。

製造業では、低燃費車や海外の需要増加から「自動車用部品」が『薄日（順調）』となり、関連する業種の部品受注も堅調に推移した。

非製造業では、エコカー補助金の効果で消費者の買い替え需要が堅調だった「自動車小売」が『薄日（順調）』となった。一方、「ガソリンスタンド」、「民間工事」などでは引き続き厳しい業況となった。

- ◇ **2012年10-12月期の見通し**は、全15業種中『晴れ（好調）』と『薄日（順調）』が該当業種なし、『曇り（普通）』が5業種、『小雨（低調）』が7業種、『雨（不調）』が3業種となった。

製造業では民生品関連で在庫水準が高まっており、引き続き低調な受注水準にとどまる見通し。これまで好調だった「自動車用部品」や関連業種では国内、海外の需要が弱含んで受注は減少見込み。加えて、尖閣諸島問題をめぐる日中関係の悪化によって、既に大手メーカーでは減産などの動きもみられるため、想定以上の受注落ち込みが懸念される。

非製造業では、観光面で最需要期である秋季行楽シーズンを迎え、県の観光キャンペーンに期待する声が聞かれるなど、観光客の取り込みを図る動きが活発化するとみられる。一方、建設や運輸関連の業種では工事量や貨物量が引き続き低水準にとどまり厳しい事業環境が続く。

### <産業別の天気図と見通し>

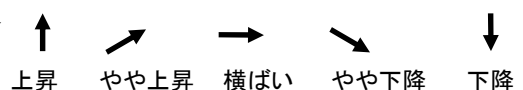
業種	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)	業種	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)	業種	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)
一般機械			食料品製造			公共工事		
情報通信機器			機械器具卸			民間工事		
電子部品デバイス			大型小売			旅客		
精密機器			自動車小売			貨物		
自動車用部品			ガソリンスタンド			ホテル旅館		

#### 業界天気図

##### <現況>



##### <見通し>



# 長野県の産業天気図 (県内主要15業種の動向)

## — 産業別四半期見通し調査結果 (2012年10～12月期見通し) —

### < 産業別調査結果 >

現況 (7-9月期)	天気図記号	15業種中 (カッコ内は前期)	見通し (10-12月期)	変化方向	15業種中
	(好調) (順調) (普通) (低調) (不調)	0業種 (1業種) 2業種 (1業種) 5業種 (5業種) 5業種 (6業種) 3業種 (2業種)		上昇 やや上昇 横ばい やや下降 下降	0業種 0業種 6業種 9業種 0業種

業種	前期 (4-6月期)	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)	10-12月期見通し
	製造業 (6業種)			
一般機械				国内、海外とも受注は減少へ
情報通信機器				自動車向けが減少し、受注は落ち込む
電子部品・デバイス				在庫調整による受注低迷が続く
精密機器				光学分野を中心に受注は堅調に推移
自動車用部品				国内や中国向けで受注減少へ
食料品製造				新商品の投入で需要増加に期待
非製造業 (9業種)				
機械器具卸				設備投資の抑制基調から受注は弱い動きが続く
大型小売				冬物商品に期待するも、節約志向続く
自動車小売				買い替え需要の一巡により売り上げ減少へ
ガソリンスタンド				厳しい収益環境の中、灯油や油外サービスに期待
公共工事				受注量、収益面ともに下押し圧力が強まる
民間工事				設備投資の低迷が続くが、住宅投資はやや改善へ
旅客				例年並みの利用を見込むが、収益状況は厳しい
貨物				顧客の減産により貨物量は減少へ
ホテル・旅館				観光キャンペーンに期待するも、宿泊利用は伸び悩む

### 業界天気図

< 現況 >



晴れ  
(好調)



薄日  
(順調)



曇り  
(普通)



小雨  
(低調)



雨  
(不調)

< 見通し >



上昇



やや上昇



横ばい



やや下降


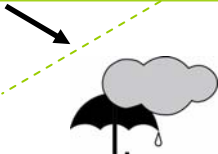


下降


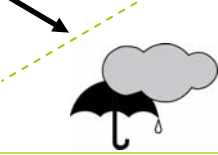
■調査内容: 「業界の現況」、「業界見通し」は、県内対象企業経営者が業界景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

■調査期間: 2012年9月中旬～2012年10月上旬、調査対象企業・・・県内主要企業15業種の134社


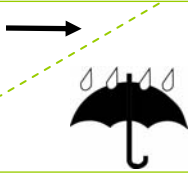
## 一般機械 : 国内、海外とも受注は減少へ

<p>現況</p>	<p>工作機械は、国内は自動車向けが底堅く推移した。海外では米国が堅調であったが、欧州は景気後退を背景に低迷し、中国も景気の減速から受注が減少している。半導体関連機械は製品需要の低迷から、メーカーの投資意欲が乏しく低調に推移した。建設機械は国内で震災の復興需要から受注が増加している。海外は、住宅着工が堅調な米国は小型建機を中心に受注が増加した。欧州はドイツなど一部の国が好調だったものの、全体的に低迷した。中国向けの受注も大幅に減少している。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>工作機械は、国内は自動車向けが引き続き底堅い受注が見込まれるものの、需要不振から全体的に鈍化する見通し。海外では欧州が引き続き低迷するほか、中国も景気の減速や尖閣諸島問題による受注の見直し・先送りもあり低調に推移する見通し。半導体関連機械は製品需要の低下とメーカーの投資意欲の冷え込みに加え、新興国との価格競争も厳しく当面回復は見込めない。建設機械は復興需要のある国内や米国は堅調に推移するが、ドイツなど一部の国を除く欧州や、中国向けは受注減少が見込まれる。</p>

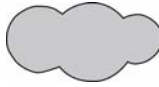
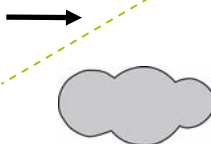
## 情報通信機器 : 自動車向けが減少し、受注は落ち込む

<p>現況</p>	<p>自動車向け部品は新車販売台数が安定して推移したため、受注は堅調に推移した。無線機器は産業機械やOA機器向けの受注が企業の更新投資が弱かったことから低調に推移した。ホームセキュリティ向けは需要に一服感がみられ、足元で在庫の過剰感が高まった。ストレージ（外部記憶装置）は大企業向けのシステム更新に伴い新規受注が増加したものの、メンテナンスは弱含んだ。大型プリンタは低価格帯を中心に国内、海外ともに販売台数は底堅く推移した。加えて、欧州や中国などでは高価格帯の引き合いも増加した。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>自動車向け部品は消費者の買い替え需要の落ち込みから受注は減少見込み。加えて、尖閣諸島問題の影響から、完成車メーカーの減産や生産調整によって想定以上に受注水準が低下することが懸念される。無線機器は企業の設備投資に先送りの動きもみられ、産業機械などで低調な推移が続く。ストレージは年度末に向けた需要期を控え、新規案件の引き合いが増加見込み。大型プリンタは海外を中心に堅調な販売が見込まれる。業界全体ではこれまでけん引してきた自動車向けが減少し、受注は落ち込むとみられる。</p>


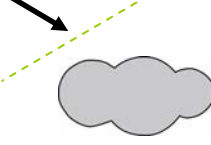
## 電子部品・デバイス : 在庫調整による受注低迷が続く

<p>現況</p>	<p>デジタル家電など民生品向けはクリスマス、年末商戦に向けた需要が例年以上に弱かったため、関連する部品受注は減少した。スマートフォンやタブレット向けの受注は好調だったが、業界をけん引するまでには至らず、民生品全体では在庫の過剰感が強まっている。産業機械向けは夏場以降、企業の設備投資が鈍化しており受注は落ち込んだ。自動車向けは堅調な買い替え需要にあわせ安定した受注を確保した。輸出企業では円高に伴う価格競争が一段と激しくなっており、受注、売り上げ、収益がいずれも弱含んだ。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>民生品向けは商戦後の不需求期に入ることに加え、在庫の過剰感から部品受注は低水準にとどまる見込み。スマートフォンなどの受注は好調なもの、海外メーカーも含めた価格競争が激しく、売り上げ、収益は伸び悩む見通し。産業機械向けは設備投資を先送りする企業もみられ、足元で民生品同様に在庫の過剰感が強まっていることから受注水準は低下見込み。自動車向けは買い替え需要が一巡しており、部品受注は減少するとみられる。業界全体では民生品や産業機械向けに在庫調整が必要となることから受注低迷が続く。</p>

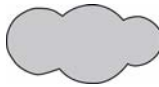
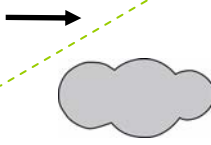
## 精密機器：光学分野を中心に受注は堅調に推移

<p>現況</p>	<p>光学分野では、スマートフォンの新製品投入により関連部品の受注量は好調に推移した。デジタルカメラ関連は、コンパクトカメラ向けに価格競争が激しく収益を圧迫した。一眼レフやミラーレスなどの高級機種は国内外で需要が高く、売り上げは堅調に推移した。産業用レンズでは半導体関連を中心に設備投資の動きが弱く受注が減少した。計器類は自動車向けに堅調な海外需要により受注は底堅く推移したが、建機向けでは中国などのアジア市場を中心に需要の落ち込みがみられ受注が伸び悩んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学分野では、スマートフォン関連で価格競争による部品単価の引き下げも見込まれるが、部品受注の増勢が続き、売り上げは順調に推移するとみられる。デジタルカメラ関連では高級コンパクトカメラや一眼レフ、ミラーレスなどの高機能製品で受注増加が期待される。産業用レンズは液晶や半導体関連で設備投資の抑制から受注低迷が続く。計器類は建機向けの受注が低調に推移するとみられる。全体としては一部で弱含みがみられるが、光学分野を中心に受注は堅調に推移する見通し。</p>
	


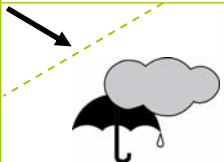
## 自動車用部品：国内や中国向けに受注減少へ

<p>現況</p>	<p>国内ではエコカー補助金の効果もあって低燃費車の需要が高まり、特にハイブリッド車や軽自動車向け部品の受注が順調に推移した。海外需要については、市場の回復が続く北米向けや、中国などアジア向け受注が安定し堅調だった。しかし、景気低迷が続く欧州向けは低調だった。補修用部品は、国内は震災の復興需要が減少したが、中古車全体の販売台数は増加し受注は底堅く推移した。海外は欧州の低迷に加え、中国部品メーカーの台頭により価格競争が激化している。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内はエコカー補助金終了や買い替え需要の一巡を受け、部品受注は減少する見通し。海外では、北米向けが景気回復による買い替え需要に支えられ順調に推移する見込み。一方で中国向けは景気減速に加え尖閣諸島問題の影響により、今後の受注減少が懸念される。補修用部品は、海外向けでは欧州市場の低迷が続く、また中国部品メーカーがさらにシェアを伸ばすとみられ、厳しい受注環境が続く見通し。業界全体では国内や中国向けに需要の減少が見込まれることから受注は落ち込む見通し。</p>
	

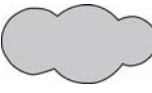
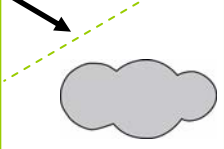
## 食料品製造：新商品の投入で需要増加に期待

<p>現況</p>	<p>味噌は夏場で生味噌の需要が落ち込んだが、糀関連の売り上げは堅調に推移した。味噌や豆腐などは大豆価格の上昇が続いたため収益が悪化した。飲料は、猛暑でミネラルウォーターや炭酸飲料の出荷が好調だった。果汁飲料は果実が不作だった昨年の影響で仕入れ価格が上昇し、厳しい収益環境となった。製粉は猛暑の影響で冷たい麺類の需要が増加し、売り上げが好調に推移した。全体では売り上げが堅調に推移したものの原材料価格の上昇によって収益が圧迫された。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は冬場の需要期を迎え販売量が増加する見通し。糀関連製品は新商品に加え、調理の幅の広さを発信するレシピを活用し需要喚起を図るとみられる。飲料はホット飲料を中心に売り上げは堅調に推移する見通し。即席食品は冬場の需要期に向け各社新商品の投入も予定しており、売り上げは底堅く推移する見込み。製粉はそばの年末の需要増加に加え仕入れ価格が低下しており、収益環境の改善が見込まれる。全体では新商品の投入による需要増加が期待される。</p>
	


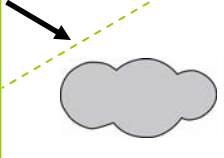
## 機械器具卸 : 設備投資の抑制基調から受注は弱い動きが続く

<p>現況</p>	<p>遅れていた製造業の生産ライン新設などの案件が一部動き出し、配線機器や分電盤など電設資材の受注が出てきたが、全体的に設備投資の抑制傾向は依然として強く受注は低迷している。工作機械は自動車向けが底堅く推移しているものの、全体的には低調に推移した。半導体関連のFA機器も製品需要の低迷からメーカーの設備投資意欲が乏しく、低迷している。一方、固定価格買取制度の導入に伴い太陽光発電設備の設置が大幅に伸びているほか、省エネのためのLED照明やエアコンなど空調機器の受注が増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>公共工事や設備案件の需要期であり、配管や電設資材、空調資材などの受注が増加するとみられるが、全体に抑制基調が強く大きな動きとはならない見通し。工作機械は自動車関連向けの受注が底堅いほかは低調に推移する見通し。半導体関連向けのFA機器も、メーカーの投資意欲は依然回復せず、受注増加は見込めない。一方、LED照明などの省エネ機器は、住宅向けを中心に引き続き堅調な動きが予想される。太陽光発電設備は年度内設置に向けた駆け込み需要が大きく、引き続き受注増加が期待できる。</p>
	


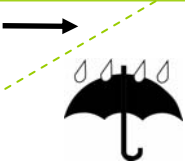
## 大型小売 : 冬物商品に期待するも、節約志向続く

<p>現況</p>	<p>百貨店では、厳しい残暑が続いた影響から、夏物衣料が順調に売り上げを伸ばした。また、食料品を中心とする中元ギフトもほぼ前年並みに推移したものの、百貨店全体の売り上げを押し上げるまでには至らなかった。スーパーでは、動きの良かった生鮮食品は野菜などが安値で推移した影響から前年並みとなった。加えて、猛暑日が続いたことで、飲料や氷菓等が順調に売り上げを伸ばした。また、総菜なども好調となったほか、日用雑貨も前年を上回って推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>百貨店では、お歳暮などのギフト需要が見込まれるほか、冬物衣料の売り上げ増加が期待される。天候による売り上げへの影響は懸念されるものの、クリスマスなどの季節催事を充実させることで、来店客数の増加が見込まれる。スーパーは、内食志向による食料品への需要は底堅く、鍋物食材などの冬物商品の売り上げが期待される。また、防寒用節電商品の需要増加も予想されることから、売れ筋商品の品ぞろえを図るとみられる。一方、消費者の節約志向から競合店との価格競争は続くことが予想され、収益の低下が懸念される。</p>
	


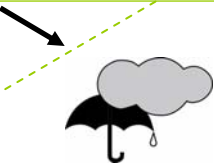
## 自動車小売 : 買い替え需要の一巡により売り上げ減少へ

<p>現況</p>	<p>エコカー補助金の効果によってハイブリッド車や軽自動車などの低燃費車を中心に販売台数が伸び、7-9月期の県内新車登録台数は例年を上回る水準となった。しかし、補助金が終了した9月の段階で既に買い替え需要の一巡がみられ、9月単月の新車登録台数は前年を下回った。輸入車は大型高級車から、コンパクトかつ低燃費な車種に志向が移っている。中古車は、補助金の効果で新車需要が上向き、下取り車が増えたことで市場も活性化し、低燃費な小型車や軽自動車を中心に順調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>エコカー補助金終了や買い替え需要の一巡により売り上げは減少する見通し。各社、順調な低燃費車を中心に新たな需要を喚起していく見込み。また、スタッドレスタイヤやカーナビなど付属品のプレゼントや、下取り車の買い取り額を上乘せするなどして販売促進を図るとみられる。輸入車は大型高級車から低価格な小型車へ需要がシフトすることで、収益性の低下が見込まれる。中古車は新車需要の落ち込みで市場へ流通する下取り車が減少し、良質な車両を確保しづらくなることから、販売台数の減少が懸念される。</p>
	


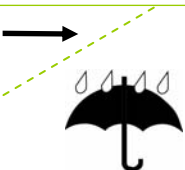
## ガソリンスタンド：厳しい収益環境の中、灯油や油外サービスに期待

現況	低燃費車の普及や節約志向から顧客の給油頻度が減少しており、また原油価格の上昇により8月以降ガソリン価格が上昇したことも影響して、販売数量は前年比で減少した。景気の減速から法人顧客の営業車利用の減少や、工場の操業度が低下し機械向けの燃料需要が減少したとの声も聞かれた。原油価格の推移に準じて仕入価格が上昇したものの、スタンド間の価格競争が依然として激しいことから、仕入価格上昇分の小売価格への転嫁は遅れがちであり、利鞘の縮小が続いた。
	
見通し	ガソリン需要は減少傾向にあり販売量の伸びは見込めない。10月1日に導入された環境税も価格転嫁は困難であり、収益の圧迫要因となる見込み。足元の原油価格は弱含んでいるが、中東の政情不安から供給懸念もあり、ガソリンの仕入価格は方向感が定まらない状況が続く見通し。過当競争から仕入れ価格の上昇分は小売価格に十分に転嫁できないとみられる。灯油が需要期に入るほか、冬用タイヤの販売や交換、オイル交換など油外サービスも最需要期となるため、各社キャンペーンなどを実施し収益確保を図るとみられる。
	


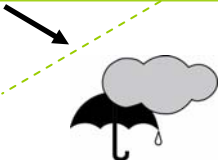
## 公共工事：受注量、収益面ともに下押し圧力が強まる

現況	今期(7-9月期)の公共工事量は前年水準を上回って推移したが、地域別の工事量にバラつきがみられた。発注者別にみると高速道路や国道の整備工事などが多かった国と、庁舎の新築など大型案件がみられた市町村は工事量、件数ともに増加した。一方、県発注の工事は前年並みの水準にとどまった。どの工事でも民間工事の低迷に伴う入札競争が激化しており事業者の受注環境は一段と厳しくなっている。労務費・原材料費は一部で上昇したが、職種や品目は限定的であり収益悪化には至らなかった。
	
見通し	来期の公共工事量はこれまで堅調だった国、県において2012年度当初予算が前年度と比べ抑制的な水準にとどまっているため、大型工事などがみられる地域を除き前年を下回る見通し。特に国は、予算執行に不可欠な赤字国債法案の成立にめどが立っておらず、進捗に与える影響が懸念される。合併特例債を活用する市町村については、引き続き増加傾向で推移するとみられる。全体として受注環境が改善することは見込めず、労務費の上昇も懸念されるため、受注量、収益面ともに下押し圧力が強まるとみられる。
	


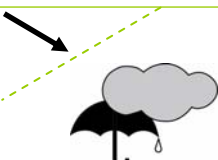
## 民間工事：設備投資の低迷が続くが、住宅投資はやや改善へ

現況	民間企業の設備投資は、エネルギー関連の一部業種で工場増設の動きがみられたが、全般としては投資に慎重な姿勢が強く、工事案件は低調に推移した。民間住宅については、新設住宅着工戸数が前年同期を下回った。しかし、消費増税法案の成立以降、住宅展示場への来場者は増加している。ハウスメーカー等では、消費増税を見据えた分譲用地を取得する動きが出始めた。リフォーム工事については、太陽光発電装置の設置工事は堅調であったが、その他の工事は盛り上がりには欠けた。
	
見通し	民間企業の設備投資は、製造業の慎重姿勢が継続し、厳しい受注環境が続く見通し。新設住宅については、所得環境の改善は見込めないため、低水準にとどまる見通し。しかし、消費増税を控えて消費者の住宅取得マインドが高まっており、着工戸数の緩やかな増加が期待される。また、一部地域では、ハウスメーカーなどによる分譲用地を取得する動きが活発化するとみられる。リフォーム工事については、太陽光発電装置の設置工事を中心に堅調に推移する見込み。
	


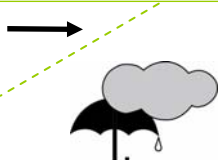
## 旅 客 : 例年並みの利用を見込むが、収益状況は厳しい

<p>現 況</p>	<p>観光バスは、避暑地などへのツアーバスや地元企業の利用が持ち直し、前年並みの売り上げを確保した。関越道のバス事故により国の安全対策が強化され、委託可能なバス事業者が減少したため、一部企業では増便できず失注案件が増加した。高速バスは、観光客や帰省客の利用が安定し、前年並みの集客がみられた。タクシーは、特に天候の良かった8月に観光客の利用増加がみられたが、地元客の利用が引き続き低調に推移し、特に夜間の利用控えが目立った。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>観光バスは、震災の影響で昨年多かった修学旅行の利用が落ち込むものの、地元企業の団体利用や県外への送客により、前年並みの利用を見込む。国の安全対策強化で貸切バスの供給台数が全国的に減少し、単価は改善傾向にあるが乗務員の増員など経費の増加も懸念される。高速バスは、年末の帰省客利用もあり、前年並みで推移する見通し。タクシーは、忘年会シーズンだが利用者は少ないと見込まれ、低調に推移する見通し。燃料価格は上昇が続くとみられ、収益の下押しが引き続き懸念される。</p>

## 貨 物 : 顧客の減産により貨物量は減少へ

<p>現 況</p>	<p>製造業の貨物量は前年を上回って推移した。業種別にみると、自動車部品はエコカー補助金による政策効果などが奏功し好調に推移した。機械関連は建設機械、工作機械、電装部品などが引き続き高い復興需要により堅調だった。食品関連は、猛暑の影響で飲料が好調に推移した。青果は前年並みの水準で推移した。業界全体では製造業がけん引し前年水準を上回ったが、依然として低水準にとどまった。県内軽油価格は期間前半は低下したが、期間後半は上昇に転じるなど不安定であり、収益環境は厳しい状況が続いた。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>製造業の貨物量は前年水準を下回って推移する見込み。業種別にみると自動車部品はエコカー補助金の終了や景気の減速を受け減少見通し。機械関連は、尖閣諸島問題発生以降、顧客に減産がみられ低水準となる見込み。青果は前年並みで推移する見通し。全体では、製造業の荷動きが鈍くなり減少するとみられる。燃料価格は高止まりが見込まれ、加えて、ドライバー不足による人件費や求人のための費用増加などもあり収益環境は引き続き厳しい見通し。</p>

## ホテル・旅館 : 観光キャンペーンに期待するも、宿泊利用は伸び悩む

<p>現 況</p>	<p>都市部のホテルでは、高校総体やコンベンションの開催もあり個人客、団体客ともに前年並みの宿泊客を確保した。観光地の旅館では、避暑地で家族連れを中心に利用が伸びたが、松本、安曇野地域では「おひさま効果」による観光客増加の反動から前年を下回り全体では低調であった。外国人観光客については、台湾を中心とした宿泊利用が底堅く推移した。一部地域で尖閣諸島問題による中国からの団体ツアーの中止もみられたが、全体に占める割合は低いため影響は限定的であった。</p>
	
<p>見通し</p> 	<p>都市部のホテルでは、技能五輪などのイベントの開催による集客効果もあり「おひさま効果」がみられた前年並みの宿泊利用が予想される。プライダルは、需要期を迎え挙式件数の増加が見込まれる。忘年会利用は、企業業績の低迷に伴い件数の減少が予想される。観光地の旅館では、県の観光キャンペーン「ぐるっと信州体験博2012」へ期待する声は多いが、団体客については宿泊の予約状況が鈍く低調に推移するとみられる。外国人観光客は、台湾やタイから団体ツアーの予約が増えつつあり、底堅く推移する見込み。</p>